

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月15日

協議会名:小千谷市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北越後観光バス(株) (H29.10.1越後交通(株)に合併統合)	循環バス 6便×2(内外回り)=計12便/日 H29.4.1～運行開始	シャトルバスとして運行していた路線を新病院や公共交通空白地域へ延伸し循環バスとして運行。シャトルバス運行時の実績である経常収支率30%を目標とした。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 運行経路を延伸し運行経費が増加した分に比例せず、利用者数は、想定よりも少なく、経常収支率は目標の30%に対し17%であった。延伸した新病院での他路線時刻重複や空白地域解消のため延伸した国道117号沿線の住宅が少ない地域では利用が伸びなかった。	運行開始後、半年間(H29.4.1～H29.9.30)の運行実績や利用実態に基づき、収支率改善に向けた運行便数の見直しやダイヤ改正等を検討する。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月15日

協議会名：	小千谷市地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>小千谷市は、新潟県のほぼ中央に位置し、面積は155.19km<sup>2</sup>、人口は36,454人(平成29年3月末)となっており、5年前(平成24年3月末)と比較し2,090人の減、年齢別人口比率では15歳以下が減少し、その一方で65歳以上(32.5%)が増加する少子高齢化が進んでいる。JR上越線小千谷駅から本町を軸として市域内の広範に路線バス、乗合タクシー、コミュニティバスで構成される公共交通網が広がっているが、人口減少とマイカー普及により公共交通利用者は減少を続け、特に路線バス事業の収支悪化による廃線や減便が続いているが、通院や通学、通勤など日常生活に必要不可欠な交通手段の確保が必要な状況である。平成29年4月1日に市内2つの総合病院が統合し、新小千谷総合病院として郊外へ移転開院したことに伴い、バス路線等の大幅な見直しを実施した。新病院への交通手段の確保と地域間幹線系統からの乗継、区画整理事業により住宅建設が進む若葉地区を含む国道117号沿線の公共交通空白域の解消、本町と郊外大型店や公共施設を結ぶことによる中心市街地活性化などの事業効果を掲げ、東小千谷地区～西小千谷地区の市街地を横断する形で運行していたシャトルバスを新小千谷総合病院及び国道117号に延伸し、市街地から郊外を循環するフィーダー系統として運行し、幹線系統と組み合わせることにより、公共交通ネットワークを構築している。</p>